

時流自流

国土交通省出身の松脇達朗氏が、1日付でフィンテックベンチャーのTranzax（東京都港区、小倉隆志社長）の取締役CFO（最高財務責任者）に就任した。電子記録債権を活用し、社会資本整備や住宅建設を担う建設業を含む中小企業の資金繰りを支援しようという志に共感。2～3年後の東証1部上場を目指す小倉社長を支え、ガバナンス体制の確立に向けた役割に徹する構えだ。

「役員就任への経緯をいふことは今後たくさんある」

「特別顧問として1年8カ月、電子記録債権を活用して中小建設業などに対する金融支援を行おうという取り組みを見てきた。金融とITを融合したフィンテックを単に事務の効率化や顧客の囲い込みに用いるのではない、志の高い仕事をしていることに共感した。役員就任といってお話を頂き、ベンチャー企業でチャレンジする人生も面白いかなと思い、引き受けることにした。勉強しなければなら

ないことは今後たくさんある」

「自身の果たす役割をどう認識している。」

「小倉社長が2～3年後を視野に東証1部上場を目指すと言っている。CFOという立場でガバナンス体制を確立するなどの役割を果たさなければならぬと思っ

「建設省で広報室長、国土交通省で広報課長を経験した。企業にとってPRも重要な仕事だ。」

「役所時代は危機管理広報を主に勉強させてもらっ

Tranzax取締役CFO 松脇 達朗氏



松脇達朗氏、61歳。国土交通省出身。元国土交通省広報課長。現在はTranzax取締役CFO。

た。企業として積極的な広報にもしっかりと取り組みたい。地道に取材に応じたり、外部に誠意を持って説明を尽くしたりすることも重要になる。電子記録債権に対する疑問にも答えていきながら、企業の隠れたニーズに対応していくことも求められるだろう」

「役所時代の経験や人脈を生かせる部分も多いのでは。」

「建設業振興基金が取り組む金融支援事業や電子商取引のCI-NETで、当社が扱う電子記録債権を活用していただける余地があるし、無駄もなくなる。安

「それぞれの事業に一生懸命取り組んでいても、資金繰りで苦労している中小企業経営者は多いと思う。ITを活用することによって手間暇が格段に効率化する、無駄もなくなる。安

「それ以外の事業に一生懸命取り組んでいても、資金繰りで苦労している中小企業経営者は多いと思う。ITを活用することによって手間暇が格段に効率化する、無駄もなくなる。安

中小支援、未来の懸け橋へ

国交省出身でベンチャー役員に

も対応している。そうした提案の機会を持てるようにすることが重要になるだろう」

「当社の取り組みが中小企業にとつての『隅の親石』（石造の建物の基礎のうち、隅に据える大事な石）となり、未来への懸け橋となることを願っている。そうした仕事を与えられた。課題もあるだろうが、コミュニケーションを重視した内部管理に徹しながら、みんなと一緒に社会を変えられるような企業を目指していきたい」。

（まつわき・たつろう）
80年東大法学部卒、建設省（現国土交通省）入省。西日本高速道路常務執行役員、官房総括監察官、政策統括官などを歴任して退官。三井住友トラスト総合サービス顧問、Tranzax特別顧問を経て現職。静岡県出身、61歳。